

# 有明高専だより

第71号

有明工業高等専門学校

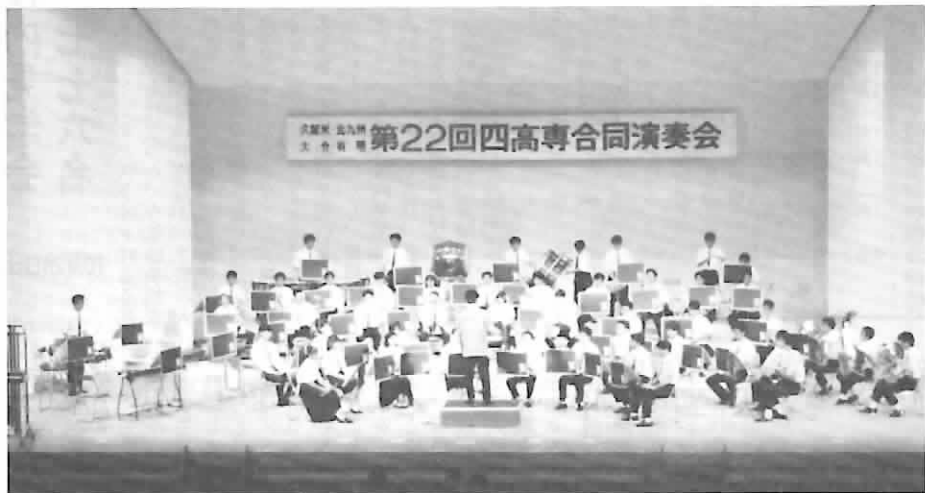
〒836・大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1013

印刷：重富オフセット

## 第22回 四高専 合同演奏会

今年の四高専合同演奏会は、去る7月30日(日)に大牟田文化会館大ホールで開催致しました。



内容は3部形式で、1部では各高専からの選抜メンバーによるオリジナル、A・リード「ミュージックメーカーズ」を始めとする4曲を、2部では、これも選抜メンバーによるポピュラーミュージックを、そして3部では総員約90名によるクラシック、G・ヴェルディの「アイダ」より凱旋行進曲、G・ビゼーの「アルルの女」第一組曲、R・ワーグナーの序曲「タンホイザー」を演奏致しました。各ステージ共大変好評でした。

特に3部の曲は、指揮の古賀郁利(有明高専卒)さんから、この演奏会の為にアレンジして頂いたもので、90名という人数で演奏する曲を根気強くよくまとめて頂いたと思います。  
よき指導者に恵まれたお陰で、大変迫力ある、高専プラスバン

ドらしい演奏を、お聴き頂けたと思います。

この演奏会の為に、本校に於て7月25日から31日までの1週間、北九州・久留米・大分・有明の各高専の吹奏楽部員、約90人が合宿をして演奏会の為の練習に励みました。

合宿は、一日9時間練習というハードな毎日でしたが、他校との交流を十分に深めて楽しい合宿となりました。

又、今年本校が、主管校という事もあって準備に大変苦労した所がありました。無事この演奏会を終える事が出来た事を大変嬉しく思います。私達吹奏楽部はこれからもこの演奏会を有意義な物としていく為に一層努力していこうと思っておりますので、今後とも皆様方の暖かい御理解と御支援のほど、よろしくお願い致します。最後にこの演奏会を開くに当たって、御尽力下さった方々に心より感謝致します。誠に有難う御座居りました。

実行委員長

4 A 光安 一英



## 目次

- 1 第22回四高専合同演奏会
- 2 入試説明会・校内見学会
- 3 中学校訪問
- 4 平成2年度編入学試験
- 5 公開講座
- 6 パソコン入門教室
- 7 中学生のための化学実験講座
- 8 吉村虎蔵前校長叙勲
- 9 夏季実習報告
- 10 研修旅行報告
- 11 宮本先生、学術奨励金を受けられる
- 12 工場・建物見学
- 13 文化講演
- 14 「免状と通伝子」
- 15 教室通信
- 16 学寮だより
- 17 第26回九州地区高専体育大会
- 18 第24回全国高専体育大会
- 19 第12回全国高専テニス大会
- 20 第19回西日本地区高専弓道大会
- 21 体育記録会
- 22 交通マナーアップ運動について
- 23 第17回高専祭
- 24 下宿主懇談会
- 25 英語弁論大会報告
- 26 アイデア対決ロボットコンテスト報告
- 27 新学生会発足
- 28 編集後記

# 入試説明会・校内見学会 参加者 七七八名

10月28日(土)

本年も例年通り入試説明会及び校内見学会を10月28日(土)に実施した。本年は参加者が昨年と比較して大幅に増加し、776名を数えた。(昨年度618名) 内訳は生徒618名、保護者94名、先生64名、参加中学校106校であった。

実施要領は、全体を3組に分け、1組10班編成(一班約25名)で、受付時間から第1組12時40分から、第2組13時40分から、第3組14時40分からとした。また、昨年のアンケートの結果を考慮して、入試説明はスライド等の見やすい視聴覚室で行ったようであり、各科の展示の学生による説明も好評だった。当日は心配された天候もどうにか回復し、なんとか無事終了した。

学科等	テーマ	見学場所
電子計算機	電子計算機室設備等の紹介	電子計算機室(図書館3階)
電子情報工学科	電子情報工学科棟紹介 パソコンで設計する電子回路(CADのデモ)	3階 LL教室
工業化学科	有機化学及び物理化学実験装置の展示と説明	2階 有機化学実験室
		1階 分析化学実験室
電気工学科	ハロー、モーター 元気が出るパソコン・スライド	1階 電気機械実験室
		2階 電子実験室
建築学科	建築学科の概要 造形、建築設計製図の作品展示	1階 造形室
	騒音測定と日影図作成 構造材料とRC・SC骨組の実験	1階 造形室
		1階 構造実験室
機械工学科	コンピュータによるネームプレート製作実演 NHKアイデア対決ロボットコンテストのビデオ映写とロボット展示	1階 機械加工実験室 中庭テラス

計 106校

## 入試説明会・校内見学会アンケート結果

回答	回答 記入者	生徒	先生	保護者	計
1 総参加者数及びアンケート記入者数	参加者	618名	64名	94名	776名
	アンケート記入者	615	38	76	729
2 「入試説明会、校内見学会」に参加することを決めたのは(生徒のみ集計)	自分で	578			615
	保護者のすすめ	9			
3 あなたは有明高専をどの程度知っていますか	ア. よく知っている	22	2	3	27
	イ. ある程度知っている	300	17	25	342
4 あなたの身内の人で有明高専を卒業された人、在学中の人がいますか	ア. 卒業生がいる	34	4	10	48
	イ. 在学生がいる	72		7	79
5 あなたは有明高専を見て、「高専に就いてある程度理解が深まった」と感じましたか	ア. はい	515	34	66	615
	イ. いいえ	11		2	13
6 あなたが有明高専を見学された感じられたことは	ア. 施設が整っている	353	19	40	412
	イ. 実験設備等が充実している	311	27	52	390
7 このような行事は毎月頃実施したほうがよいと思いますか	ア. 8月	102	10	15	127
	イ. 9月	129	2	6	137
8 8月28日、工業高校生を対象にして編入学試験が行われた。志願者は、機械工学科10名、電気工学科3名、建築学科6名の計19名であった。選挙の結果、次の11名が合格した。	ウ. 10月	279	21	44	344
	エ. 11月	81	5	6	92
	オ. その他の月	19		1	20

**アンケート・コメント集**

△生徒のコメント▽

○とても楽しくおもしろそうだった。先輩方がとてもやさしく、親切だった。

○中学生でも理解できるような実験をして欲しかった。

○もっといろいろな所を見たかった。スポーツや授業の風景を見たかった。

○私達も入学して勉強したら、あんなことが出来るようになるの不安。

○もっとゆつくり見せてほしいかった。専門用語がけっこうでてきた。わかりづらいところがあった。興味があるところも多かった。

△保護者のコメント▽

○学生さんの顔にまじみを感じ

○子供もこのように設備の整った学校で勉強できたらと思っております。

△先生のコメント▽

○気軽な雰囲気の中で説明され、しかも生徒達からすると先輩方からの説明ということにより高専を身近に感じられた。

○大学の工学部に来たような印象を受けた。

○大学受験にふりまわされないことがすばらしいことだと思う。

○途中道案内の看板を立てて頂いて迷わず来られました。

○もう少し時間をとり、実際の授業や学生生活について、先輩達の話聞かせてもらいたいと思います。

## 中学校訪問

本校のPRと中学校との情報交換を目的とした中学校訪問を昨年に引き続き、本年も各科の協力を得て実施した。訪問中学校数は約10校で、訪問先はほぼ昨年と同じであった。他の高専との競合地域の中学校の先生の中には、高専に対する認識をかなり持つておられる方もおられた。しかし、まだ中学校へのPRが必要だとの意見が多かった。訪問地域は次の通り

○福岡県：大牟田市・三池郡・山門郡・柳川市・筑後市・大川市・三浦郡・浮羽郡・三井郡・甘木市・小郡市・筑紫野市・筑紫郡・春日市・大野城市・太宰府市・朝倉郡

○熊本県：荒尾市・玉名市・玉名郡・熊本市

○佐賀県：佐賀市・佐賀郡

## 平成2年度編入学試験

8月28日、工業高校生を対象にして編入学試験が行われた。志願者は、機械工学科10名、電気工学科3名、建築学科6名の計19名であった。選挙の結果、次の11名が合格した。

- 機械工学科
  - 荒巻千年(浮羽工業高校)
  - 佐多博文(福岡工業高校)
  - 杉内勝弘(小川工業高校)
  - 松野真也(玉名工業高校)
  - 雪野竜也(玉名工業高校)
  - 林田和男(玉名工業高校)
  - 松岡秀之(三池工業高校)
  - 川本康之(三池工業高校)
- 建築学科
  - 大野弘子(浮羽工業高校)
  - 野田真吾(小川工業高校)
  - 久田功(博多工業高校)

# 平成元年度公開講座

## (1) 「パソコン入門教室」

中学生を対象とした公開講座「パソコン入門教室」は例年好評を博し、本年も多数の申し込みがあったが、設備の都合上43名を受け入れた。

担当講師荒木教授ほか3名、開講日は7月24日(月)から7月27日(木)の9時から12時30分、講座内容はパソコンの取扱い方からBASIC入門・プログラム作成および簡単なワープロ操作法という要領のもと実施された。

受講生はパソコンへの興味や関心が非常に高く、熱心な受講態度で、受講後の自由時間もほとんどの者が居残りプログラム作成に熱中していた。かなりのBASICおよびパソコン操作技術が習得できたものと思われる。



「パソコン入門」受講風景



「化学実験」受講風景

最終日のアンケート調査の結果は下記の通りであり、「4日間の開講日数が短かすぎる」、「内容はほぼ理解できた」、「今後コンピュータに興味を持ってそうだ」、「来年も受講したい」などの反響を呼んで講座は終了した。

## (2) 中学生のための 化学実験講座

工業化学科で、平成元年八月一日から二日にかけて中学生を対象とした公開講座を昨年度に引き続き実施した。中学生自身に化学実験をやってみてほしい、「化学に興味を持たせる」ことが目的である。募集人員二十名に対して参加者は九名と少なかつたが、一班二、三名で四班をつくり、各班がそれぞれ六つの実験課題を二日間で充分時間をかけて行った。

中学生にとっては、おそらく初めての化学実験であり、また取り上げられた実験内容も興味深いものであったために参加者全員最後まで熱心だった。感想文によると

参加者のほとんどが、講座に参加して勉強になり、面白かったと述べている。

願わくば、参加者が増え、さらには工業化学科を希望する受験生が増すことを期待したい。最後に、本講座のため御協力戴いた方々に深く感謝致します。

実験課題は次の通りである。

- 電気メッキ
- 沈澱反応及び呈色反応によるイオンの検出
- 流れの観察
- 水の沸騰現象
- クマトグラフィー
- 振動反応
- 角砂糖の燃焼
- 赤い噴水の発生
- ケミカルガーデン
- 走査型電子顕微鏡による化学物質の観察
- パソコンによる面白化学学習

## 吉村虎蔵前校長叙勲



昭和六十一年三月退官された吉村前校長は、平成元年秋の叙勲で勲二等瑞宝章を受章されました。

先生は、大正八年生、昭和十六年九州帝国大学卒業後、兵役等を経て同二十五年熊本工業専門学校に着任、引き続き熊本大学、九州大学教授として構造力学及び橋梁工学の理論的研究に顕著な業績を重ねられ、学生の教育・指導・育成に温厚な人柄の中にも厳格な態度で

## 平成元年度 公開講座「パソコン入門教室」アンケート集計結果

実施日 7月24日～27日  
受講者43名 最終受講者41名 アンケート回答者41名

- この公開講座があることをどうして知りましたか。
  1. 新聞記事(10名)
  2. 広報(19名)
  3. 中学校の掲示(6名)
  4. 担任の先生(2名)
  5. その他(5名)
 (他の中学の先生、友達、姉、父、不明)
- この講座に参加することをどうして決めましたか。
  1. 自分で(24名)
  2. 家族のすすめ(20名)
  3. 先生のすすめ(0名)
  4. その他(1名) (知人)
- 時期について(夏休みの中の間で)
  1. 丁度良い(38名)
  2. おそい方が良い(1名)
  3. 8月始めが良い(2名)
- 期間は4日間でしたが、長いか短いか書いて下さい。
  1. 長すぎる(0名)
  2. 短すぎる(31名)
  3. 丁度良い(10名)
- BASICについて勉強したことがありますか。
  1. あった(12名)
  2. ない(29名)
- この講座の前にパソコンを使ったことがありますか。
  1. あった(17名)
  2. ない(16名)
  3. 自分でもっている(12名)
 その機種名(MSX2(3名)、PC-8801MA2、富士通、MSX、PC-9801UV、FM77AV40EX、PC-8801MH、PC-8801、無回答)
- 説明はどうでしたか。
  1. やさしかった(1名)
  2. 丁度よい(29名)
  3. 難しすぎる(11名)
  3. を選んだ者はどういう点が難しかったか(速度が早い4名、専門用語が難しい6名、プログラムが難しい1名)
- 内容は理解できましたか。
  1. よく理解できた(2名)
  2. 大体理解できた(37名)
  3. わからなかった(2名)
  3. を選んだ者はどういう点がわからなかったか(意味がわからない1名、沢山ありすぎた1名)
- 今後コンピュータに対して興味をもてそうですか。
  1. はい(41名)
  2. いいえ(0名)
  3. わからない(0名)
- この4日間の講座について何か感想を書いて下さい。

### 夏季実習報告

4 M 小笠原幸雄



僕は7月10日～28日の間、山口県にある(株)日立製作所笠戸工場で工場実習を行った。この会社を選んだ理由の一つは、大企業の雰囲気というのとはどんなものだろうと考えたからだ。この会社は、電気製品というイメージを強く持っていたが、笠戸工場は大変機械色の強い工場であった。ここでは車両、産業プラント、クレীন生産システム、半導体製造装置が作られており車両ではJR線、新幹線の台車が多く見られ、一番忙しそうだった。工場は日立で二番目に古い工場とのことだったが、半導体製造工場は近代的で、新しくきれいだった。初日「切削諸元の実態調査と高効率加工の問題点検討」というテーマをいただき実習に入った。

と見たレーダーチャート上に表し、それにより各機械の問題点を検討した。データ集めで初めのうちは作業者の人になかなか声をかけられなかったが、話してみると非常に忙しい時にもかかわらず、親切に、丁寧に話してくれたのでとてもうれしかった。また、若い人が少なく40～50才ぐらいの人が多かったのも印象的だった。

てきた企業とは少し違っていたように3週間大変勉強になったと思う。

4 E 上津原英也



実習先が東京と決まりとてもうれしかったが、それもつかの間、実際行ってみると人の多さ、車の多さにびっくりさせられた。中でも朝の通勤ラッシュは自分の想像していたものよりはるかにものすごく、電車の中では身動きもできないような状態だった。

私は8月18日より30日まで大日精工工業(株)東京製造事業所へ工場実習に行つて参りました。派遣された課はオフセットインキ技術開発課で、実習テーマは「オフセットインキの流動特性の把握」です。大日精工工業については事前にも何も知らなかった。「そんな大きい会社ではない」と思っていたのですが、それは大きな間違いでした。知名度が低いのは得意先が一般庶民ではないからなのであり、大日精工の製品の納入先、また研究対象ともども幅の広さに驚かされました。また大日精工工業の専門である「色」ですが、これの奥深さにもまた目を見張るものがありました。しかしこの限られたスペースでは詳細を説明できないのが大変残念に思います。

次に新しく入った5面加工マシンングセンターというパレットに材料を固定すると裏以外はフライス、エンドミル、タップ、ドリル、ザグリなどの加工を全自動で行えるという大変優れた機械の作業分析を行った。これは、ストッパウォッチでこの機械の作業工程を細かく区切り、それを表にし時間の有効利用について検討するというものだった。この時は、69工程も作業を自動で行い本当に日本の技術力はすごいと思った。この工場でも自動化が進み、NC機が多く見られたが、一人で機械を2、3台と受けもっている人がいて、自動化が進んだからといって、必ずしも楽になるわけではないと思っ

た。3週間実習を行い感じたのは、ここは安全性に大変気をくばられていると思った。特に工場の中は、ヘルメット、メガネ、耳せん、安全靴は必ずつけなければならず、一つでもしていない人は一人もいなかった。こういう所がいままで見

初めの出勤の日は滅茶苦茶緊張して会社の説明等があったが、全く耳に入らなかった。実習の部門は電話等通信に関する所で、アナログ信号をデジタル信号にまたはその逆を行う交換機というものを設計している所だった。普段何気なく使用している電話だが、何故ダイヤルを回すだけで、またプッシュホンを押すだけで相手と通話できるのかそれさえ知らない自分が、ここで2週間もの間やっ

ていけるのかとても不安だった。実習の内容は電話での雑音をどのようにすれば消すことができるかをシミュレーションにより検討するという「なんだか良く分らないものだった。しかし指導者の方の助言もあり日が過ぎるにつれて、作業の内容がつかめてきた。職場の雰囲気も最初は緊張していたせいか、固苦しく感じたがすぐに打ちとける事ができた。最終日には会社の方達の前で報告会がありうまくいくかどうか不安だったが自分では満足できる発表ができたのではないかと思う。全体を通して満足いく実習だったと思う。

また実習テーマの実験では、操作の極簡単なものを割当てていただいたにもかかわらず、失敗ばかりで、学校の実験の大切さを再認識するとともに、社会で通用するためには改めて社会で修業することが必要だと痛感しました。そんな意味でもこの工場実習は大変有意義でかつ実りのあるものでした。結局「オフセットインキの流動特性」よりも以上のことの方が大きく頭に残りました。最後に自分のたび重なる失敗を毎日毎日笑顔で指導して下さいましたオフセットインキ技術開発課の皆様には厚く御礼申し上げます。

4 C 安田 雅也



工場実習以外では、自由行動が雨にみまわれ台無しになったのが残念だった。最終日には、三十三間堂や京都国立博物館を見学することができ、観光気分を味わうことができた。この研修旅行で学んだ点は、団体行動における個人の心構えの重要さであった。最後に、友達との親睦を深めぐラス全員が事故にも遭わず健康で旅行を終えられた事が何よりも良かったと思う。

できたことは幸運だったと思う。もう一つの見学場所、三洋電機では、見学する各場所での専門の方がくわしく説明していただいたが、一番興味を持ったのは、TVの画面を葉書くらいの大きさのカードにコピーできるものだった。確かに他社では既に発売されていたように思うが、非常に利用価値が高いと思う。

4 A 藤井 博史



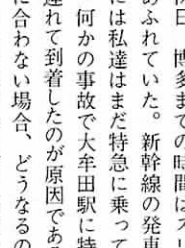
7月25日から8月9日までの約二週間、東京の第一建築株式会社という会社で夏季実習をさせていただきました。建築好景気の波にあおられてか、会社側の実習生に対する態度はとても親切、丁寧で気持ちよく仕事ができました。実習内容は、現場実習・現場見学・積算作業等が中心でしたが、その他にも東京の建築物見学等を通じて様々な事を学ぶことができました。

計算方法ですが、これにはとても神経を使いました。学校で一日中数学の問題を解いているのと同様、とても眠い思いをしました。東京見学は、会社側の超特大サードビルで、実習とはいっても内容は横浜博覧会の見学や東京ドームでのナイター観戦などでした。ちょっととした息抜きをさせていただきました。実習内容以外に学んだことは、社会人どうしの交流つまり、人との接し方やつき合い方などです。これは重要な事で、楽しく仕事をするには必要不可欠な事だと思いました。

工場見学以外では、自由行動が雨にみまわれ台無しになったのが残念だった。最終日には、三十三間堂や京都国立博物館を見学することができ、観光気分を味わうことができた。この研修旅行で学んだ点は、団体行動における個人の心構えの重要さであった。最後に、友達との親睦を深めぐラス全員が事故にも遭わず健康で旅行を終えられた事が何よりも良かったと思う。

三日目と四日目は京都見物だったが、三日目一人でゆっくりめぐりをしたのはとても鮮やかに憶えている。中でも東本願寺は最も気に入ったところで、かなり長い時間お堂の中に座り込んでいた。四日目の映画村と金閣寺にはうんざりしてしまつた。映画村は思ったほど規模は大きくなかった。何より人が多くて嫌だった。金閣寺は多いどころではなかった。成金の感覚であまり印象がよくなかった。研修旅行の前と後での変化という点、就職というものがより近い存在になったことだ。次第に漠然としたものではなくてきている。

4 E 古閑かおる



初日、博多までの時間はスリルにあふれていた。新幹線の発車時刻には私達はまだ特急に乗っていた。何かの事故で大牟田駅に特急が遅れて到着したのが原因である。間に合わない場合、どうなるのだろうかと不安だったが、新幹線のホームまで走り去って間に合ってしまった。最初からこれではと先が思いやられた。

大阪に着いて早速、三菱電機の見学をしたのだがあきれたことにほとんど記憶がない。やたらと工場が広くて歩き疲れたことぐらいだ。二日目の大日本スクリーンでは、最新の印刷技術の高さに驚いた。このような特殊な工場を見学

4 C 竹島 幸一



現場見学では、工事中の現場や、完成した建築物などを見学したのですが、学び得た物は多かったと思います。現代風の建物の感覚、社会が求める機能、厳しい条件の中で建てられた建築物から学べた事がいくつかありました。

平成元年5月10日から13日まで京都、大阪方面へ、鐘淵化学工業

### 研修旅行報告

4 M 木下 茂



私達4Mの学生は、5月10日から3泊4日の日程で、京阪神方面への研修旅行を行なった。見学先はマツダ株式会社本社工場、ダイキン工業株式会社堺製作所、松下

電器産業株式会社技術館の3社である。入学以来、期待していたこの旅行は、様々な点で有意義なものであった。さて、最初の見学はマツダ(株)である。組立加工ラインでは車体下まわりの作業ラインをオーバーヘッドコンベアにし、更に30度の傾斜をつけたチルトハンガーを用いて、作業姿勢に無理がないように工夫されているのが目に付いた。また、工場の床面からも突起物を取り除き、床に埋設されたストラットコンベアを採用し快適な環境づくりと生産性の向上に努められていた。

二日目の見学地ダイキン工業(株)では、空調調和技術に力が入られている。エアコンや冷凍機といった製品が造られていた。ここではPDS方式と呼ばれる多品種の混合生産が行なわれ、生産ライン上を流れる製品は毎回一定の物ではない。また、コンピュータ・グラフィックスによる部屋の空気流動の様子は目を引くものがあった。次の松下電器(株)では、製品の素晴らしさよりも人材育成の面に感動した。「物をつくる前に人をつくる」を経営理念とし、社員一人一人の人格を尊重し、若い人にも大きな責任と権限を与え、新しい時代を切り拓く為の「創造チャレンジする人材の育成を目指して、それぞれの適性・能力が最大限発揮できるように配慮されているのが非常に印象的であった。

大阪に着いて早速、三菱電機の見学をしたのだがあきれたことにほとんど記憶がない。やたらと工場が広くて歩き疲れたことぐらいだ。二日目の大日本スクリーンでは、最新の印刷技術の高さに驚いた。このような特殊な工場を見学

（株）日本科学冶金（株）ダイキン工業（株）の工場見学及び京都、奈良、大阪での社会勉強を目的とした研修旅行に行ってきました。

私達は、鐘淵化学、日本科学冶金、ダイキン工業の順に工場を見学した。まず鐘淵化学高砂工業所では、合成樹脂、化成系、合成繊維など多くの製品が生産、研究されていたが、中でも我が国最大の規模の塩化ビニルモノマープラントやユニークなイオン交換膜法電解設備などは目を見張るものがあった。

日本科学冶金では、複合粉末法による電気接点、含油軸受、機械部品、樹脂成形品が製造されており、粉末冶金の概要と製造工程を複合粉末作成実験デモを混じえての親切な説明を受けた。

ダイキン工業では生憎の雨のために工場内の見学は中止となり、ここで製造される製品の簡単な説明を受けただけに終わった。

10、11日の工場見学を終えて、12日、私達は自由行動となり、朝食をとると皆、自分の好きな所へと出掛けて行った。

世界の観光名所の一つである京都、奈良の木造建築物や仏像は、長い歴史の重みを感じさせ、そこから立ち去る時、知らぬ間に背筋を伸ばしている自分に気付くのだった。

今回の研修旅行で得たものは、ただもくもくと自分の役割を果た

している人達を見て、ほんの一部だけだろうが、社会に出て働くという厳しさを感じたということだ。そして、今、自分が何をやる事を考えさせられた。

4A 大隈 淳也



落ちるんじゃないかと、ビクビクしながら飛行機に乗って、やっと待ちに待った東京に着いた。

最初の東京の感想は、田舎者の自分にとっては、「すごい」の一言だった。雲より高い超高層ビル、どこへ行っても、ベンツやBMWが見られるなど、大牟田の街では想像もできないことばかりだった。

見学した建物の中で一番心に残ったのは、やっぱり東京ドームだろう。よくもまあこんなんでっかい建物を建てたなあと感じるばかりだった。テレビでしか見ないと思っていた場所に、実際に自分が立っているのが信じられなかった。

その他、国立競技場やNSビル、東京カテドラルなど、すばらしい建物ばかりで、大変勉強になった。今回は3泊4日と短い期間だったが、今度行く時は、ゆっくと、いろんな所に行ってみよう。

工場見学

- 7月5日 5A 高取保育園
7月7日 3C 凸版印刷(株)熊本工場
9月7日・8日 2E 三菱電機(株)福岡製作所
9月19日・20日 1M プリヂェンサイクル(株)旭工場
9月28日 4M 日立造船(株)有明工場
9月29日 3A 三池コンクリート工業(株)
10月3日 5A トーヨーサッシ(株)有明工場
10月9日 5A 日本建築学会全国大学・高専卒業設計展(熊本大学)
10月19日・20日 3A 北九州市立図書館
10月19日 3A 北九州市立視聴覚センター
東陶機器(株)
スベールワールド建設事務所
新日本製鐵(株)
三菱鉱業セメント(株)
九州事業所黒崎工場
10月19日・20日 2C (株)香蘭社
三菱重工業(株)香焼造船所・研究所
歴史民俗資料館
10月26日・27日 2M 平田機工(株)ロボット工場
11月8日・9日 3M セイレイ工業(株)福岡工場
通産省工業技術院
九州工業試験所
11月9日 4E 九州電力(株)新熊本変電所
九州電力(株)黒川第一発電所
11月10日・11日 4A 熊本県立美術館
熊本県立博物館
熊本県立伝統工芸館
熊本県テクノポリスセンター
南小国町立中原小学校
木魂館
小国ドーム 他
11月15日・16日 3C 三菱鉱業セメント(株)黒崎工場
三菱化成工業(株)黒崎工場
黒崎窯業(株)
東陶機器(株)
11月17日 5A 福岡銀行本店
竹中工務店九州支店
(中央銀行新築工事現場)
福岡県立総合プール
11月29日 3E 佐賀エレクトロニクス(株)
佐賀工場
(株)プリヂェン久留米工場
12月6日 4C 三井東洋化学(株)大牟田工業所

宮本先生、学術奨励金を受けられる

今年、みなさんも東京に行く機会があると思うので、その時には是非いろんな建物を見に行ってください。それから、六本木あたりで見かける、変なおじさんには気を付けましょう。

今回の研修旅行は、自分にとつて、高専生活の中で多分一番の思い出になるだろう。

最後に、とてもおいしい夕食を作っていた、山中旅館のおばさんたち、本当に分かりやすい説明をしてくれた、バスガイドの皆さん、どうもお世話になりました。

青少年の育成と学術教育振興を目的に、学術奨励金、振興助成金を援助している財団法人「吉田学術教育振興会」から、顕著な研究成果をあげたとして、このほど工業化学科の宮本信明先生に奨励金百万円が贈られた。奨励金贈呈の対象になった研究テーマは「電池材料としての高活性な二酸化マンガンの化学合成とその放電特性の研究」である。なお、贈呈式は、三月二十三日、久留米市で行われた。先生は、三年程前に研究実績が認められて、九州大学から工学博士の学位を授与されておられ、今後のますますの成果を期待したい。

文化講演 (元.11.4) 免疫と遺伝子

九州大学生体防御医学研究所 教授 笹月健彦



ただ今ご紹介いただきました笹月です。いったい免疫とはどういうことなのか、それから遺伝とはどういうことなのか、さらに私どもが発見した免疫抑制遺伝子の研究の過程について簡単にお話します。そしてそういう免疫とか、遺伝という現象からみて、我々が今日どこに存在しているのはいったいどういう意味があるのか、あるいは存在しているからどういふことを我々が将来やらなければならないのか、ということについて日頃感じていることを話したいと思います。

最初に免疫についてですが、身体の中に何か入ってきますと、それに対して抗体をつくり出す。抗体というものはタンパク質です。それからキラーT細胞というものをつくり出す。これは入ってきたものを殺す役割をする細胞です。だから、変なものが入ってくると、身体は抗体をつくるか、キラーT細胞をつくるか、そのどちらかを

してそれを身体の外に出そうとして、それはいわゆる生体の防御機構といわれます。例えばハシカにかかっても、ハシカのウイルスを、キラーT細胞もしくは抗体がやっつけてくれてくるのです。そして一旦そのキラーT細胞とか、抗体ができますと、特にハシカのウイルスの場合には一生身体の中に残っているのです。だから、一度ハシカになるともう二度とハシカにかかることはないというのが免疫の鉄則なのです。

つまり、その免疫系があるからこそのような感染症を起こしても抗生物質を使えば必ず感染症から立ち直ることができるのです。ところが生まれつきの免疫不全の子どものように、免疫系というものがなければ何でもハシカにかかります。あるいはすぐ直るような風邪とか中耳炎などが非常にひどくなって、いくら抗生物質を与えても、感染症で結局は亡くなってしまいます。抗生物質というのは、

このように免疫系がなければ個人は存続しえないので人類という種も存続しえないことになり、だから、人間にとって、個人にとつて必須の防御機構である免疫系というのは非常に複雑で巧妙な、そしてエレガントな応答の機構なのです。

ところが、その機構を使って免疫応答すればそれでいいかというのと、免疫応答したために、今度はその個人が倒れるという場合もあります。肝臓の細胞にB型肝炎ウイルスが感染するとそれに対してキラーT細胞がきます。そしてそれが肝炎ウイルスの感染した肝細胞をそのウイルスごと排除しようとするのです。ですから結果としては自分の肝臓の細胞が殺され

ることになり、急性の肝炎ということになります。ひどい場合には劇症肝炎というので死んでしまうこともあります。このように免疫応答というのは、必須の防御機構でありながら、それを発揮したために死んでしまうこともあります。いわゆる両刃の剣なのです。

人間にとつて有害な外来異物というのは、百万、一千万、一億もの種類で存在するので、それと特異的に結合する抗体は、それに応じた種類を必要とされます。抗体はタンパク質でできてますから、タンパク質をつくるための遺伝子が必要になるのです。すると一億種類のタンパク質をつくるためには一億種類の遺伝子が必要になります。一般に人の遺伝子は、5万〜10万ぐらいです。今言った一億種類の異なるものが入ってきて、それに対して防御機構の抗体をつくるために一億種類の遺伝子が要るとしても、人はもともと5万個しか持たないのですから、それだけの遺伝子から一億種類の抗体をつくるはずがありません。だから今までの遺伝学の常識では何か説明できないことがあるに違いないというのが、免疫学者の大きな疑問でした。何が入ってきてそれ

に特異的に反応する抗体をつくるメカニズムが何なのかというのが疑問だったのです。それを解決したのがノーベル賞をもらった利根川さんです。彼は一個の遺伝子をいくつかの部分に分けて考えたのです。できあがったものがあるのではなくて、部

分品があつて、その中から適宜、一つずつピックアップしてきて、最終的な遺伝子をつくらうというのです。要するに遺伝子は組合せで対応しているということを利用して利根川さんが世界で最初に見つけてノーベル賞に輝いたのです。遺伝学者にとつては非常にそれは驚異的な発見でした。われわれは一つの遺伝子が一つのタンパク質をつくると思つていたのですが、そうではないということが明らかになったのです。だからどんなものかやっつけても、必ずそれと特異的に結合するような抗体をつくることのできるという免疫学における多様性の説明がそこでついたので、

ところが、だからといって常に免疫応答すればいいかというのと、それはまた逆に都合の悪いこともあるというのを先に話しました。ある場合には免疫応答するけれども、ある場合には免疫応答しないということもコントロールするシステムが必要なのです。それをやっつけるのがHLAという物質です。他人から腎臓をもらうような臓器移植の場合には必ず拒絶反応が起こります。他人の腎臓が入ってきたために身体はそれに対して抗体やキラーT細胞をつくるのです。そのキラーT細胞がその腎臓を殺すことになり、結局腎臓はおちてしまいます。これが拒絶反応です。

ではこれが自分ではなくて他人のものであるののを見てい





銀杏棟 学寮だより 紅葉棟

岱明寮に入って

1M 原田 耕次

有明高専に合格して、この寮で生活することになったが寮生活は初めてのことであった。寮生活は不安のほうが強かった。でも部屋は4人で、いろいろ話しているうちに友達になれた。ほかの部屋の人たちともすぐに仲よくなれ心配するほどでもなかった。寮は、食事時間や、起床時間、ふろなどの時間がきまっています。家と違って規則正しく生活しているかなければならないが、今まで、いかげんに生活していたので慣れるまで少しきつかった。入寮してすぐに寮生球技大会があった。一年から五年まで一緒にやってやっただけでもうれしかった。6月に入って寮生漫歩があり往復二十キロを歩いた。あんなに長く歩いたのは初めてできついばかりだった。一年は話があつて指導されたが、年々楽になつていって聞かなくなつてきた。寮生活はあまり自由がないけどいざいざ一人立ちする時が来るのでいい経験になると思う。

1E 高田 祥和

4月に入学してから寮に入つて

不安がたくさんあった。とくに、友達などできるかどうか心配だった。でも、寮は、たくさんの人と知りあつて友達も多くなつた。寮に入つて一番あつたことはとても恐い対面式だった。対面式は、上を向いて目をつぶって先輩がきたことを僕たちが大きな声で答えるというとても恐いものだった。そして、寮で一番嫌なことは、談話だ。30分間くらい正座をして上を向いて目をつぶるというとてもきついなものだ。そして、あいつなど悪い人は、手まで挙げさせられるというつらいものだ。寮ではおまけに寮生漫歩という30kmくらい歩くというとてもきついなことがあった。寮生漫歩は、夜のぬむたいときに歩いたのできつくてきつくてたまらなかつた。おまけに一年生は、途中でジュースも買えないことも辛いことだった。こういうつらいことが寮ではあるけど、友達と毎日話したり、毎日勉強帯という勉強する時間もあり寮はいいところがあると思う。

1I 川杉 知弘

僕は、この学校に合格して、そして寮に入ることにした。僕は最初、この寮はTVや漫画であるような、とても楽しくて、やさしい寮と思つていました。

1C 井浦 貴史

最初の印象が、古い、みずばらしい、壊れてもおかしくない、というところでした。しかし先輩は優しいので、というのも第一印象でした。今思つてみれば、まったく逆。住めば都、というように慣れずにはいられない。慣れたらいい、いらいほりには耐えられないのがあります。優しいと思つていた先輩も、寮務主事のお言葉通り優しいという形容にかわりました。

しかし、現実とは違つて、とても厳しく、一年はあきつとか制服は標準とか、いろいろな決まりがあつて、最初はとてもいやで何度もやめようかと思つていました。この寮に入つて、5月の連休までが一番苦しかった。そして、だんだん時がたつにつれて、たくさん友達もできていきました。友達がすぐに、そしてたくさんできたのは、僕が寮に入らずに、通学していたら、こんなふうに友達が増えてきたかと思つて、この寮の生活を楽しんでいます。親から離れ、自分の生活をみんなどいっしょにやつていけるというのは、これから大人になつていく自分にとって励みになると思つています。

1A 小林 洋

僕は中学生のころ、あまり勉強をしていなかったのですが、この寮にはいつて、本当によかつたと思つています。ここには勉強帯という時間があるので、勉強をするようになりまし。分らない所があれば、友達におしえてもらえばいいし、自習室もあるし、時間割り、その他いろいろと分らないけれどすぐに聞けるので、とてもいいと思います。中学生のころは、朝は七時三十分すぎに起きていたので、この七時二十分起床は起きれるかなと思つていたら、今では寮歌を聞くとすぐに起きれるようになりまし。この寮に入る前は、とてもきびしい所だろうと思つていたけれど、入つてみると先輩の方々はやさしいので、とてもよかつたです。僕も先輩の方々にまけないように、勉強がんばつていきたいと思つています。

寮生漫歩で感じたこと

寮長 倉本 浩司

空を見あげると、少し雲が出ています。寮生として参加していたいた教官方全員が、それが雨雲であることを祈つたことだろ。これから、30キロの道のりを夜通し歩くのだ。毎年恒例の寮生漫歩。『前の晩、銀杏棟屋上での雨乞いも神様には届かなかつたよ。うだ。さて、いよいよ出発である。しかし二百人以上の若者が不気嫌な顔をしながら列をなして、たらたら目的もなく歩く姿は、冷静に見ると非常に滑稽である。しかしこの行事、無意味で、ただ疲れるだけのアホらしい行事だろ。僕はそうは思えないように感じた。もう12時をまわつたころだろ。三池公園も過ぎ、勝立に入つていった。我々は二列で歩いてきた。寮もあと少しだ、という頃、四、五人の寮生が最後の力をふりしぼつて走り始めた。それを切っ掛けに、ほとんどの寮生は走り始める。早く寮に帰りたいという気持ちの表れだつた。あの窓灯りになにか懐かしい、心の安まる何かを感じるのであつた。規則だからだ。自由がない。寮でも、このように感じられるのは本当に不思議である。何年かたつて寮生活をふり返つてみると、こんな経験を思い出すのだろ。かと思つて今日このころである。

第26回九州地区高専体育大会

平成元年7月21・22・23日

主管校 都城工業高等専門学校  
担当校 鹿児島工業高等専門学校  
八代工業高等専門学校

第26回九州地区国立工業高等専門学校体育大会は7月21・22・23日の3日間にわたつてC地区(主管校 都城、担当校 八代、鹿児島)で開催されました。今年の大会は天気にも恵まれ各地で熱戦が繰り広げられ、本校は団体優勝は逃したものの柔道、軟式庭球、硬式庭球は準優勝をものにしました。個人戦では柔道の軽重量級で広松君が優勝し、硬式庭球の個人戦ダブルスでは西田・久富君が優勝した。さらに、陸上部の野畑君は大会新記録の100m優勝、田上君は槍投げ優勝、400mRにも優勝を果たすなど特に陸上部の活躍が目立った。



都城会場

- 陸上競技 都城運動公園陸上競技場
優勝 鹿児島 準優勝 佐世保
第三位 有明
100m 一位 野畑光晴 5C ※10'07
800m 三位 栗原博志 4E 2'02'03
110mH 三位 有吉政人 4E 16'01
400mR 一位 有明 ※43'02
(花田・野畑・有吉・田上)
1600mR 三位 有明 3'28'06
(田上・田中・古賀・野畑)
走高 四位 有吉政人 4E 1m75
砲丸投 四位 奥田 治 5E 11m97
円盤投 四位 田上添明 4E 33m72
やり投 一位 田上添明 4E 52m24
※大会新記録
◇軟式庭球 都城市テニスコート
(団体戦の部)
優勝 佐世保 準優勝 有明
第三位 鹿児島
決勝リーグ 有明2-1鹿児島
有明0-3佐世保
(個人戦の部)
大淵・藤田・林・渡辺
二回戦敗退
(女子オープン個人戦)
第三位 三隅3A・大笹3A

鹿児島会場

- 硬式野球 国分市営球場
優勝 久留米 準優勝 大分
第三位 有明・北九州
二回戦 有明6-3熊本
準決勝 有明0-7久留米
◇バスケットボール
国分市総合体育館
優勝 鹿児島 準優勝 大分
第三位 久留米

八代会会場

- サッカー
八代高専グラウンド
優勝 鹿児島 準優勝 大分
第三位 久留米

剣道

- 勤勞身体障害者 教養文化体育施設
(団体戦の部)
優勝 鹿児島 準優勝 八代
第三位 佐世保
有明 Aパート(大分・八代・有明)二位
(個人戦の部) 男子
森・堀口・高川 二回戦敗退
(個人戦の部) 女子
水間 予選リーグ敗退
◇水泳 南日本酪農プール
優勝 佐世保 準優勝 久留米
第三位 熊本 第四位 有明
(山部・片山・佐原・岡本)
800m白 三位 山部哲範 1M 12'47
200m白 二位 岡本岳志 1E 2'24'37
三位 和田善昭 3M 2'27'03
200m背 五位 山部哲範 1M 2'58'21
200m平 五位 片山 修 3A 3'05'24
100m白 五位 佐原耕治郎 4A 1'24'10
400m白 三位 和田善昭 3M 5'25'64
四位 岡本岳志 1E 5'26'40
50mバ 五位 佐原耕治郎 4A 4'33'93
400mR 四位 有明 4'28'25
(岡本・倉本・山部・和田)

卓球

- 北九州 準優勝 鹿児島
第三位 久留米
予選リーグ
有明0-3八代
有明1-3佐世保
(個人戦の部)
ダブルス 本田・松下ベスト8
シングルス 井上 二回戦敗退
(女子オープンシングルス)
末吉2A 予選敗退
◇バドミントン
鹿児島高専第一・二体育館
優勝 熊本 準優勝 佐世保
第三位 有明・鹿児島
予選 有明二勝(大・北)
決勝 有明X-1佐世保
(個人戦の部)
ダブルス 信国・立石ベスト8
シングルス
信国・牧島 二回戦敗退
(女子シングルス・オープン戦)
優勝 古河1C
第三位 石橋3C

柔道

- 都城・八代 第三位
有明4-4八代 PK敗退
八代市武道館
優勝 八代 準優勝 有明
第三位 大分
予選B (有・佐・鹿) 一位
決勝 有明1-2八代
有明4-1大分
(個人戦の部)
軽量級 木下靖夫 5C ベスト8
中量級 立野勝己 3E ベスト8
軽重量級 広松秀文 5A 優勝
柴田健一 5M 第三位
重量級 辻哲則 1M ベスト8
◇バレーボール
八代市総合体育館
予選C (熊・久・有) 二位
有明2-0熊本
有明1-2久留米
◇硬式テニス 八代市営コート
(団体戦の部)
優勝 鹿児島 準優勝 有明
第三位 佐世保
予選B (北・有・八・鹿) 二位
決勝 有明2-1大分
有明1-2鹿児島
(個人戦の部)
ダブルス 西田5E・久富5A 優勝
原5C・江口2A 第三位
寺尾・河野 二回戦敗退
シングルス 原5C 第四位
江口 ベスト8
西田・久富 二回戦敗退
(女子オープンシングルス)
準優勝 青山ひとみ3C

### 第24回全国高専体育大会

期日 平成元年8月23・24日  
 主管地区 東海・北陸地区  
 主管校 鳥羽商船高等専門学校  
 場所 昭和の森テニスコート

今年の全国高専体育大会には本校から陸上部の野畑・田上・有吉・富重・花田・田中君6名と柔道部から広松君が参加した。結果は以下の通り。

- ◇陸上競技 三重県宮総合競技場
  - ・100m優勝 野畑光晴(有)
  - 11秒27(風、向4・6m)
  - ・4×100mR 優勝
  - 野畑・田上・有吉・花田(有) \*43秒09



◇柔道 鳥羽商船高専第1体育館  
 (個人の部) 軽重量級  
 広松(有) ベスト8

1回 原田(長崎)×○広松  
 2回 広松×○山岡(明石)

### 第12回全国高専テニス大会

期日 平成元年8月2・3・4日  
 主管 東京工業高等専門学校  
 場所 昭和の森テニスコート

個人戦ダブルス ベスト8  
 西田・久富

- 1回戦 シード
- 2回戦 有明8-12宮城
- 3回戦 有明3-18函館

### 第19回西日本地区高専弓道大会

期日 7月24日(日)  
 久留米総合スポーツセンター  
 市立弓道場

団体戦予選リーグ男子  
 有明8-11高知

団体戦予選女子  
 新居浜高専と同率一位

団体戦決勝リーグ女子 二位  
 有明3-15新居浜

有明1-2八代  
 女子個人戦  
 第四位 4C 橋岡ひとみ

### 第16回九州地区高専ハンドボール大会

期日 7月16日(日)  
 北九州市立小倉南体育館

準優勝 有明

一回戦 有明28-11都城  
 二回戦 有明30-25鹿児島  
 決勝戦 有明13-17八代



### 体育記録会

平成元年度体育記録会が、9月26日に行われた。予定では22日に行われるはずでしたが、大会前日から雨のため、26日に延期になった。この日がくるのをどれだけの人々が待ち望んだことか。

今大会は、800mリレーのかわりに、女子500m走が行われた。今年から、電子情報科ができ、女子学生の数も年々増えてくるので、これからは、女子競技も多くなっていくであろう。当日の悪コンディションにもかかわらず、200m、1500m、4000mリレー、ハンドボール投げで新記録が生まれた。

◎体育記録会成績

○女子50m	3 A 三隅	7" 7"
○100m	5 C 野畑	11" 80
○200m	4 E 田上	24" 01
○400m	5 M 倉本	56" 16
○1500m	3 E 寺本	4' 31" 60
○4000mリレー	4 E	47" 90

- 男女ハンドボール投げ
    - 2 A 横田 44m 08cm
    - 3 A 大笹 22m 96cm
  - 走り高跳び
    - 4 E 有吉 1m 74cm
  - 走り幅跳び
    - 3 C 木原 5m 63cm
  - 学科対抗リレー 電気工学科
  - 最優秀選手 5 E 古澤
  - 総合優勝 電気工学科
- 以上のような結果に終わり、各種目の一位には、メダルと賞状が与えられた。
- 最後に、今大会を運営するにあたって協力して頂きました学生会執行部、運まで残って準備に当たってくれた陸上部員の皆様、どうもありがとうございました。
- (体育局長 中島康雄)

### 交通マナーアップ運動について

近年、交通事故の増加が大きな社会問題となっている。交通事故を減らし、交通のマナーを向上させるために、地域の人々の努力がなされている。

そのような組織の一つに「大牟田地区高等学校交通安全対策連絡協議会(高交連)」があり、本校もそのメンバーとなっている。この高交連では、各校の生徒会・学生会役員とともに、交通マナーの向上をめざす通学時の街頭指導を行ってきた。十一月には、各校の生徒会・学生会の代表者による会



議が持たれ、いままで、そして今後の交通マナー向上に対する取り組みが話し合われた。

また別の団体として「若鳩会」がある。これは小中高の学校教員によって運営されており、交通を含む生徒・学生の指導や補導に当たっている。

本校では、毎年バイク通学生に對して「バイク実技講習会」の受講(本年十月十七日「写真II」)を義務づけているが、その指導は「大牟田市二輪車安全普及協会」のメンバーの方々をお願いしている。バイクの実技指導とそれに先立つ整備不良の点検は、全て無償で行われていることを特記しておかなければならない。

以上の諸活動の指導及び事務的な側面での協力体制は、警察署及び交通安全協会の活動によって支えられている。

### 第17回高専祭

今年には趣向を変えたものにしていう意図が的中して中夜祭、仮装パレード、M科の水のモニメント、E科の迷路、C科のミステリガーデン、A科の紙の建築等の評判がよかったようです。さらに、よい役員に恵まれたことやホスターをいろんな場所に貼ったこと等が成功の原因だと思います。

この半年間、毎日反省の繰り返しで、計画どおりに実行できなかったこと、パンフレット作成に苦労したこと等大変よい思い出になりました。次回の高専祭ではさらに新しいことにチャレンジしてほしいと思います。

(高専祭実行委員長 池水弘二)



### ◇機械工学科

我々機械工学科では、水のモニメントという製作物をメインに中庭でのバンド演奏、エンドレス

テープによる説明など音響効果を利用して今までより盛り上がる高専祭を目指しました。なかなかうまくいかなかった点も多数ありましたが、機械工学科の学生全員が夜遅くまで作業をしてくれたため、無事成功に終わることができました。全体的に今年の高専祭は、中夜祭をはじめ例年になく盛り上がりがあったと思います。これを期に高専祭を通してますます有明高専を盛り上げてほしいと思います。

(機械工学科 林孝二)

### ◇電気工学科・電子情報工学科

新しいアイデアに挑戦しようという目標で、恋人占い、電気自動車、自動演奏、音感認識(神社)、会場案内、センサ(迷路)、ロボット等今までになかったものもおり混雑して展示し、十分楽しませることができたと思います。二日間の高専祭のために、出し物を完成させるまでの過程で学んだ楽しさ、難しさは将来技術者を目指す自分たちにとって本当によい経験になったと思います。今年情報科も加えての高専祭となりましたが、次回はこの経験を活かして電気科、情報科ともすばらしい高専祭にしてくれるだろうと思います。

(電気工学科団長 和田圭治)

### ◇工業化学科

今年の工業化学科は全員参加をモットーとし、先輩方が受け継いでこられたメッキ、化学マジック、分子模型等に新しいアイデアを盛

り込み、さらに新企画としてミステリガーデン及び女子パートの身の回りの高分子や紫外線による蛍光発光ゾーン等を設けたところ予想を上回る入場者となりました。連日遅くまで頑張った結果がこのような大成功につながったと全員喜んでいきます。この高専祭で得られた貴重な経験をこれからの学生生活あるいは社会に出てからも活かしていきたいと思っています。

(工業化学科 青木慎一)

### ◇建築学科

我が建築学科には多くの人が集まりました。パザールでは途中5回も材料がなくなるほどでした。展示では紙の建築や住宅環境に人が集まり、特に住宅環境は年齢層にかかわらず多くの方に注目されていました。一方、ドームと古建築は人目をひくものでしたが、見れば分かるため感嘆の声は聞くものの、足を止めさせるためには少し力不足でした。今年の高専祭で見たことや体験したこと反省をふまえて、次回からに活かしてほしいと思います。

(建築学科団長 広松秀文)

### ◇中夜祭

客のよべる中夜祭ということにフィーリングアップ、女装コンテスト、美人コンテストを主旨にして、バンド演奏と司会者のおしゃべりで4時間をつなぐという構成で進行しました。会場の雰囲気作りのためのランブ付きバックボ

ードの製作はほぼ満足な仕上がりでした。用意した椅子は四八〇席でしたが、フィーリングアップが始まった頃から会場が沸き上がってきて、気が付くと千人近くの人で埋まっていました。今までにない盛り上がりがあり、感動を残して幕を閉じました。

(中夜祭担当 柴田健一)



### 下宿主との懇談会

本年度の下宿主懇談会は7月4日(火)に修己館1F研修室において9名(岩城・原・松永・岩永・木下・中島・山村・越山)の下宿主にご出席頂き、教官側からは校長・学生主事室4名・クラス担任8名が参加して開催された。下宿主一人一人から下宿生の生活状態や退学した学生のその後の様子等の話があり、学生主事からは本年度からは下宿に四輪車を持ち込まないよう指導をしている旨の話があった。

### 九州地区高専英語弁論大会報告

英語は、もう異国の言葉ではありません。英語は文字、音声となつて日夜私たちの目や耳に飛び込んで来ています。その英語を、とくに音声としての英語を自分の言葉として使えることは大きな喜びでありましょう。英語上達方法の一つとして、相手との言葉の即興のやり取りを通じて学ぶいわゆる「英会話」と比して、話すあなた自身が途中さえぎられないことが保証され、話すあなたにしんぼう強く耳を傾けてくれる聞き手が約束される「スピーチ」は、話す英語上達のための有効な方法でありましょう。言葉のやりとりの機敏さが問われる英会話に対し、一方的にしゃべることが許されるスピーチに、一層の価値が見いだされてよいと言えましょう。

7月25日、本高専で技を競った九州地区9高専英語研究部の25名の諸君は、存分に英語での意見発表を楽しみ、レシテーション及びスピーチの部の堂々の発表を行なっていました。レシテーションでは、八代高専上田千代子さん、スピーチでは、大分高専今村寿男君が優勝しました。本高専からは3C木本、2A増田、1I下川の三君がスピーチに出場しましたが、惜しくも入賞を逃しました。

(池田記)



### 合言葉は『先手必勝!!』

機械工学科五年 倉本浩司

一九八九年、夏、我々、五年機械工学科はいつもと違う夏を迎えることになった。アイデアコンテスト出場決定より約三週間、何枚の図面を書き、何度、買い物に行き、何回、試作を行っただろうか。暑い。とても暑い夏だった。そのことがロボット製作を遅らせ、皆をいらつかせることになる大きな原因のひとつでもあった。

だが僕等は多くの問題乗り越えることができた。機械の先生方も学生にもどった気分を取組んでおられた。僕等は皆、「速いものをつくらなければ。」「楽しいものをつくらなければ。」を考えていたし、有明高専の名を背負ってコンテストに出る者の義務だと思っていた。誰もが僕等に声をかけてくれた。「ロボットはできよるが、それがなによりも励みになった。一日も早く、一日も早く完成させなければ、毎晩、遅くまで5Mの教室の灯が消えることはなかった。」

「このロボットが国民の前で活躍するんだな。」と思うと非常に恥ずかしい気持ちになった。

たった2人の見送りの中ではあったが僕等は夜行で横浜へと旅立った。車内ではやはりどんなロボットが出てくるのか、全員、期待と不安で眠れなかった。でもすぐ横濱では、実際にいろんなアイデアがあるものだと思った。アイディアがあるものだと驚いたことはいうまでもない。他高専との苦労話はとても楽しいものであった。どの高専も多くの問題をかかえており、必死にくりくり回していたことだ。とにかく明日は互いがんばろうと握手をかわして回った。でも久留米は無視した。結果は三位、悔しさもあったが、不思議なことに解放感と同時に大きな満足感があった。製作に協力してくれた皆の顔が、思い出され、感謝の気持ちで一杯になった。応援席の先生もおりてこられ、「よくやった。これだけやれば、十分だ。」かたい握手をうけた。たかが、ロボットコンテストぐらいで大袈裟なノット笑われるかも知れない。だけど、こんなバカみたいなことでも、一生懸命にやれるんだということを誇りに思いたい。こんな幼稚なことでも、汗を流してやったんだ、やり通したんだということを誇りに思いたい。

### 学生会長になって

4M 後藤 英

11月14日私はとうとう学生会長に選ばれました。会長となってまず最初の仕事は各局の局長などの役員を決めることでした。役員は自分が一年間仕事してゆく上での大事な参謀役です。そういう意味でも是非、自分が最も心を許せる人達にやってもらおうと思っていました。ところが、いざ探してみると、いろいろな問題が生じて役員選出は大変難航しました。新しく役員になった人達にはかなり私の無理を聞いてもらいました。おかげで役員は最高のメンバーとなっていてと思います。

さて、来年の秋には体育祭があります。ついこの間、前学生会と実行委員の努力で高専祭は大成功を収めました。体育祭は高専祭の派手さに比べると、どちらかと言うと内輪だけの行事といえます。しかし、逆の意味では学生全員が全力を尽くして参加する行事です。私はこの体育祭を成功させ、みなさんの心に残るようなものにしたと思います。「学校は勉強するだけの場所ではない」などとよく耳にしますが全くその通りで、この有明高専が勉強する為だけの場所であつたらこんな多くの学生は集まらないはずで、

### 編集後記

○十月二十八日に入試説明会・校内見学会を開いた結果、多くの中学生、保護者、中学校の先生を含めて七七六名の方が参加され何とかな無事終了した。

○前校長吉村虎蔵先生、秋の叙勲で勲二等瑞宝章を受けられた。永年の工学教育の功績に対するもので、心からお喜びを申し上げます。○今回は四年生諸君の研修旅行及び夏季実習報告を各科それぞれ一名ずつ書いてもらった。

○十一月四日の高専祭には九大医学部笹月健彦教授に講演していただいた。演題とは多少違うかもしれないが、次のようなことを強調されたように思う。一つは自分が何が得意なのか、何が好きなのか早く見極めることが重要だ。人それぞれ遺伝子の型が違うから、他の人にはない能力を持っている。それを見つめるためには、色々な事に挑戦し、自分に合ったものを見つけて出し、それを若いうちにとことん鍛えあげることが大事だ。

もう一つは、表現する能力、特に英語を身につけることだ。英語は遺伝子には関係なく、教育・訓練でどうにでもなる。詳しくは、本号を参照して下さい。

○最後に御多忙中にもかかわらず原稿をお寄せ頂きました方々に厚くお礼申し上げます。

か。私達は「高専」という学校の持つ利点を最大限に活用しなければ五年間という時間がとてももったいないものとなってしまいます。この様に、広い視野で学校について考えてみると、いろいろな問題はとも小さく見えてくるはずで、そして諸問題に対する対策はいつもありきたりの様に感じます。

みなさんが毎日生活してゆく上で私達は一体何をすればいいのか、どうすればみなさんが有意義に毎日過ごせるだろうか、自分自身に問いかけて、これから一つずつ答を出したいと思えます。

人が人を指導するのは大変難しいことです。同年代の人を指導するとなればなおさら難しいでしょう。試行錯誤を重ねると思いますが自分の信じた役員達と一年間全力を尽くしたいと思えますのでよろしくお願い致します。

- 平成二年度 学生会役員
- 会長 4M 後藤 英
  - 副会長 4A 川田 寛 4C 久常賢治
  - 書記 4M 高添修行
  - 会計 4M 福田輝孝 4E 山本幸一
  - 3M 高田賢児
  - 体育局 4E 田上恭明 3C 太田黒庸行
  - 2A 佐藤一政
  - 風紀局 4E 山下 直 3C 堀口晋市
  - 報道局 4M 倉本 守 3E 猿渡 裕
  - 整美局 4E 花田憲児 3M 前川和憲
  - 文化局 4E 藤井浩司 3M 中川英貴
  - 放送 4C 前田和美 2C 土山 希